

【資料】 授業等での書画カメラ活用場面例



拡大して投映する →そのまま大きく電子黒板等に投映できるので、視覚的に分かりやすくなる。

+書き込みができる。静止画にもできる。

資料等をクリアファイルで挟み込み、ホワイトボード用ペンで書き込む。書き込んだ文字等は、簡単に消すことができる。

資料の大切な部分や実験等の場면을静止画にして表示しておくことができる。静止画は、PC不要で、保存や再生(スライドショー)ができる。

児童生徒と同じ持ち物(教材)を投影する

- ◎教科書、小さな絵や図表、地図等など、話し言葉だけでは理解が難しい教材を説明する。
- ◎原稿用紙の書き方やノートのマス目の使い方を教える。
- ◎ワークシート等を投映し、作業の手順を説明する。
- ◎用具や機器の使い方を教える…教員の実演(手元)の様子を見せて、お手本を示す。
 - ・お道具箱の整理の仕方
 - ・折り紙の折り方
 - ・分度器を用いて角度を測る。
 - ・「つめ、はしら」の手順で辞書を引く。
 - ・包丁を使うときの手の位置
 - ・電卓の「M+」キーの機能の活用法
 - ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの指使い
 - ・履歴書の書き方

何を映そう？

一つしかない資料を投影する

- ◎書籍、新聞記事、写真、絵画、習字などの紙資料や、地球儀、実験器具、模型、商品ラベル等の実物資料を投影し共有して、分かりやすさをアップさせる。

実験等の様子を投影する

- ◎メスシリンダーや計測器の目盛りを拡大して全員が見られるようにする。
- ◎様々な視点や、鏡を使って見えにくい角度からの様子を見られるようにする。

思考を深める学習 →関心を高め、思考のポイントが明確になる効果的な投映ができるので、問いや課題を深めることができる。

付箋を使って一部を隠す

- ◎情報が減り、ポイントが明確になる。
- ◎隠された部分や全体の場면을、想像したり、推測したりできる。

見せたいものを次々に投影する

- ◎授業の展開に応じて選ばれた、資料(フラッシュカードなど)が示されるので、学習効果が高まる。
- ◎多くの優れた作品や表現を共有し、参考にできる。

発表や話し合い →多面的・多角的に追究したり、新たな気づきが生まれたりすることで、思考力や表現力が培われる。

複数の意見や考えを、まとめたり並べたりして投影する

- ◎グループにおける話し合いの内容を1枚のシートにまとめ、全体に説明する。
- ◎アイデアを記入した付箋を1枚のA4用紙に貼って、アイデアを可視化し、整理する。
- ◎いくつかの方法を並べて比較し、最も効率よくできる方法はどれかを検討する。
- ◎ディベートの際に、提示した主題に対する肯定・否定それぞれの意見を示す。

●書画カメラで他にもできること

- ・直接、黒板に投映して、重ねてチョークでかき足す。
- ・書画カメラの画像と、保存した画像を同時に映し出し、2画面で表示する。
- ・カメラの向きを変えて、黒板の映像や生徒の様子を映し出す。

●活用のための参考資料

- ・ICTを活用した指導方法(文部科学省・H29)
- ・ICTを活用した授業づくりに関する研究(北海道・H29) 7つの実践事例
- ・シリーズICT活用 ご存知ですか?書画カメラの効果的な使い方(大分県教育庁チャンネル・H28)

誰でも
すぐに
簡単に